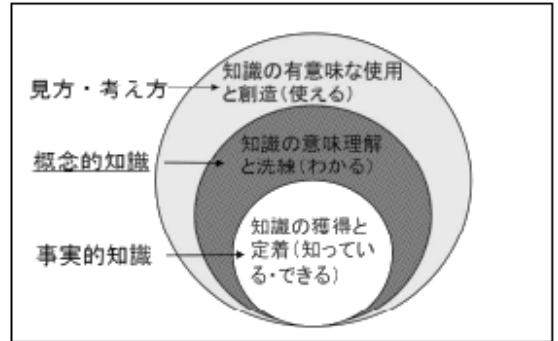


大分教育事務所訪問 2 それぞれの学校の価値を発見して伝えていきましょう！

臼杵市立南中学校から学ぶ

長年、炭焼き活動や臼杵祇園祭りへの参加等地域と共にある学校として、さらに、小規模特認校としてのミッションを果たすために大変な努力をされていると感じました。また、タブレットの活用や概念的な知識の研修、中間試験を廃止して単元テストを導入するなど、先進的な取り組みも行われています。



出典：指導資料 鹿児島県総合教育センター(H30,4)

学校経営から学ぶ

学校の教育目標「『かかわる』『わかる』『つたえる』南中生の育成」を達成するために、生徒に「情報処理・活用力」「表現力」「自己肯定感」の資質・能力をつける実践を行っています。情報活用能力については、言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け、各教科等の特性を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとするのが、中学校学習指導要領「総則」(pp51～52)に明記されていますので、本校の資質・能力の3本柱をつなぐポイントだと思いました。

今後は、日々の授業や行事において、この3点を常に意識する(生徒に意識させる)ことで、「かかわる」「わかる」「つたえる」の具体的な姿(ゴールイメージ)が次第に明確になると思います。そのためには、日常の授業の「ふりかえり」において、具体的な生徒の姿(生徒にどのような内容を書いてほしいか。生徒がどうあってほしいか等)を明確にすることから初めてはいかがでしょうか。

授業から学ぶ

小規模校の良さを生かし、タブレットの活用がどの授業も日常的に行われていることに驚きました。さらに学び合いを組み込むという、個別最適な学びと協同的な学びの実践を多くの授業で見ることができました。

特にひまわり学級の理科では、生徒に時間設定を決めさせるなど、自己決定や自己存在感の場が保証されていました。また、指名した生徒が答えられない時に、ある生徒が見事なヒントを言っていたことも印象的でした。

多くの授業で、個人→ペア→全体という流れが見られましたが、ヒントカードを与えても個人で考えることができない(課題が十分理解できていない)生徒もいるので、個人で考える場面の途中でペアや自由に動く場を設定する等、個人→ペア(または自由に動く)→個人→ペアと複数回行うことでより個人での考えが深まると思いました。教師の準備も大切ですが、生徒の力を信じて、認めたり、任せる活動を多く仕組むことで、表現力や自己肯定感も高まると思いました。



NO.37 2021年6月 臼杵市立南中学校

集中する集団

自分で目標を設定し、各自の方法で努力するから、みんなが集中して成長する。



NO.38 2021年6月 臼杵市立南中学校

やり続ける

課題について調べて、まとめたことを入力し発信する。繰り返すことではよくなる。そして、まとめる力もつく。



NO.35 2021年6月 臼杵市立南中学校

個別最適な学び

調べるときは、教科書を使う。タブレットを使う。選ぶのは自分。